

平成29年度 松田病院 病院指標

- ・年齢階級別退院患者数
- ・診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）
- ・初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数
- ・成人市中肺炎の重症度別患者数等
- ・脳梗塞のICD10別患者数等
- ・診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）
- ・その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	0	29	153	347	424	455	720	748	317	42

当院の患者さんは、60歳以上の占める割合が56.5%で、最も多いのが70歳代（23.1%）、次いで60歳代（22.3%）となっています。年代別の疾患は、50歳代以下では、内痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍などの肛門疾患の割合が高く、40歳代以下では、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）の割合も高いです。60歳代以上では、肛門疾患の他は直腸・結腸の悪性腫瘍の割合が高くなっています。

診断群分類別患者数等

◆消化器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数	転院率	平均年齢
060245xx97xxxx	内痔核	330	7.95	0	50.01
060235xx97xxxx	痔瘻	247	5.76	0	43.24
060100xx99xxxx	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	196	2.05	0.51	71.16
060220xx97xxxx	直腸脱、肛門脱	181	8.86	0	64.74
060230xx97xxxx	肛門周囲膿瘍	130	2.89	0	41.98

内痔核が最も多く、当院の専門性から痔瘻・肛門周囲膿瘍も多くなっています。また、症例としては大腸ポリープや大腸腺腫に対する内視鏡治療が最も多いです。小腸大腸の良性疾患の検査入院、直腸脱・肛門脱の症例では、70歳以上の高齢の方の割合が高いです。

初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類基準 (※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	11	0	0	2	1	5	1	7
大腸癌	37	37	57	45	19	22	2	
乳癌	0	0	0	0	0	0	1	
肺癌	0	0	0	0	0	0	1	
肝癌	0	0	0	0	0	0	2	

※ 1:UICC TNM分類、2:癌取扱い規約

当院は5大癌（胃癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝癌）の中では、専門分野である大腸癌をメインに治療を行っています。UICCの病期分類では、Stage III、IVが多くなっていますが、これは当院の専門性から肛門疾患、大腸内視鏡検査による発見が影響していると思われます。また、大腸がん検診にも力を入れていることから、Stage Iの早期癌が多いのも特長です。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	重症度0	重症度1	重症度2	重症度3	重症度4	重症度5	不明
患者数	0	1	0	0	0	0	0
平均在院日数	0	7	0	0	0	0	0
平均年齢	0	88	0	0	0	0	0

脳梗塞のICD10別患者数等

該当なし

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）

◆消化器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	大腸ポリープ・粘膜切除術(2cm未満)	898	0.21	1	0.11	64.82
K7434	痔核手術（根治手術）	338	0.9	6.08	0	49.58
K6335	鼠径ヘルニア手術	166	0.01	0.78	0	61.43
K7461	痔瘻根治手術（単純なもの）	156	0.88	3.38	0	42.33
K7522	肛門形成手術（直腸粘膜脱形成手術）	136	0.99	6.63	0	60.64

大腸ポリープや大腸腺腫に対するポリープ・粘膜切除術を最も多く実施しています。また、大腸肛門の専門病院として、肛門手術件数が年間約1,300件あり、痔核・痔瘻手術、肛門形成手術が多くなっています。

外科的手術として鼠径ヘルニアに対する手術も多く、特長は短い期間（日帰り又は1泊）で手術が可能なことです。

その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0
		異なる	1	0.03
180010	敗血症	同一	0	0
		異なる	2	0.06
180040	手術・処置等の合併症	同一	42	1.3
		異なる	3	0.09